2008年NZ孫と留学…庄子節子　New Zealand

☆庄子節子

New Zealand ～孫と留学～

風光明媚な夏のリゾート地、フテンガのアカデミースクールでホストファミリーの奥様にお会いし丘の上のホームに案内された時、私達はその素晴らしい環境と景観にすっかり感激し「暗くなる前にこの辺を歩いて来たい」と申し出、孫と二人で外に出ました。眼下にはマーキュリベイの女神が私達の来訪を待っていたかのように静かに光っていました。坂を下りて行くと周辺には広々とした芝生にペンキ塗りの平家が点在し、白いヨットが芝生の上に係留されていてまるで映画の中を歩いているようで暫く言葉を失ってしまいました。一息ついたところで「素晴らしいね」とつぶやくと「うん、来てよかったね」と孫から静かな心地よい返事がかえって来ました。ああ私達は今、共有の感動で心が一つになっているのだ、これは少年になった孫との始めての貴重な経験でした。

それから二週間の学校生活は全て未知との遭遇でした。先ず私のクラスは中国人、サウジアラビア人と私の六人です。サウジアラビア人が多く授業は全て隣席の人とのペアになりますから英語しか通じません。従ってお互いを理解しよう、理解して貰おうと一生懸命話しますので非常に友好的且つ親しみが沸いて来て世界観が広がる思いでした。

孫は一週目より現地の小学校のマオリ（原住民）クラスに入り、授業を受け折り紙で鶴を折らなければならないと前夜は一生懸命練習し、その甲斐あってかとても楽しそうでした。
私達も後日、文化交流としてその学校を訪問し共にマリオのダンスを踊り「ガンバッテ」「ガンバッテ」と言いながら四股を踏み膝をたたく振りは忘れられないお土産になりました。

午後の課外授業では対岸の島を散策したり牧羊農家を訪問し牧羊犬の賢さに目を見張る思いでした。前夜マーキュリベイのクルージングでは他のクラスも一同に参加し国籍に関係なくお互い写真の撮り合いでおおはしゃぎで実に楽しいフィナーレでした。また、帰国二日前ホストファミリーにカジアルパーティにお誘いを受け沢山の帆立貝を射止め会場のみなさんから祝福を受けるなどこれも思い出深いパーティになりました。このように異国で共有した数々の感動と共に忘れられず、十二才の少年の資質が徐々に熟成されてゆくのではないかと今回の留学で一番、感じた事でしたが……。

湯本敬介（12歳）

僕がニュージーランドにホームステイしてから早いものでも3ヶ月になろうとしています。あのころは本当に夢のような毎日でした。海外は昨年のオーストラリア観光に続いて2度目でしたが、ただの観光旅行では英語を使うどころか、現地の人との交流なんて全くといっていいほどありませんでした。今回のニュージーランドホームステイ中はしゃべれない英語でしか言葉は通じないし、日本とは自然、文化などあらゆる面で異なっていたので当初はかなりホームシック状態になりました。でも滞在1週間を過ぎた頃から慣れてきたのかとても快適なニュージーランド生活を送ることができました。帰国の頃にはまだまだニュージーランドで暮らせるぞ!と妙な自信が湧いてきたほどです。僕はまた機会があったら是非とも海外に出て行きたいと思います。そしてニュージーランドで今度はもっと長い期間暮らしたいと思います。ニュージーランド滞在中、ホームステイ先の庭は森のすぐ傍にあったのでハリネズミがよく庭に遊びに来ていました。まだ赤ちゃんのハリネズミはまだ柔らかくて手のひらに乗せることができました。手のひらにのせて写真をとりましたが、これもやはりニュージーランドならではの経験だったと思います。帰国後学校でこのことを話したら皆にうらやましがられました。ニュージーランドは人間が自然とうまく調和しようとしているし、実際とても上手に共存していると思います。僕はニュージーランドで本当に自然を身近に感じることができてよかったと思います。今回のニュージーランドホームステイにいろいろ寄与してくださったスタッフの皆さん、貴重な経験をさせていただき本当にどうもありがとうございました。

☆湯本敬介

Evakonaの高校準備コースの生徒たちが、孫と留学グループの交流に参加

☆山寺美優

孫と共に過ごしたニュージーランドでの短期留学は日常の生活とは多いに異なるものでした。しかし、留学先で過ごした時間は不思議なほどゆったりと流れていたように感じます。それは多分、孫と家内と3人で過ごしていた海外生活の中から、ごく自然に感じられた幸福感のようなものだったのではないか、と思っています。こうした体験が出来たことに感謝しています。

佐藤敏明（祖父）

～孫と留学～

山寺美優（9歳）

今年の夏休みに、ジイジとバアバと一緒にニュジーランドに行きました。6月ごろにママから話を聞いていたから美優はとても楽しみにしていました。そこには、お父さんとお母さんと3人の女の子がいました。お父さんは学校の先生で、お母さんは太った人でしたがとても優しい人でした。三人の女の子は、6年生、4年生、1年生で、名前はシェインデン、ブレンディー、リッキー、です。みんな美優と同じくらいの子だったからすぐに友達になって一緒に学校に通いました。学校にはマウイの子たちもたくさんいて、踊りや言葉も習いました。お弁当を食べた後は日本から来た子と近くの公園や港や町に遠足に行きました。その時はジイジ、バアバが一緒でとても楽しかったです。美優はもっとニュージーランドにいたかったけど、またニュージーランドに行ったら同じ家に行って、3人の女の子と遊びたいです。

佐藤雅子（祖母）

難波先生からのご紹介で「孫との留学」のお話を伺い、まずは体験してみよう、と参加させていただきました。「孫と一緒にホームスティしながら語学学校に通う」というプログラムに新鮮さを感じたからですが、この企画を通じて異国での日常生活を孫と共有することが出来たことは何物にも代えがたい体験でした。孫の美優は、日本と違ってゲームやおもちゃの無い普通のご家庭で、3人のお嬢さんたちと折り紙やボール遊びに熱中しました。そうした日常生活の中に、子供たちらしい自然な姿を見たようにも思います。今まで知らず知らずのうちに習慣になっていた、物を与えることによる甘えや、甘やかしの世界から、お互いに我儘が言えない日常生活を共有できたことは大きな学びでした。いろいろとお手配いただきましたことに感謝申し上げます。

2008年NZ孫と留学…桐谷益子　New Zealand

6歳の孫を連れていくのに多少不安を感じましたが、私の不安をよそに彼は全く物怖じせず日本にいる時と同じおしゃべりで、何にでも興味をもちうるさいぐらいでした。

特にホームスティ先の4歳の男の子とは日本にいる彼のやはり4歳の弟とするように仲良くしていたかと思うと、ケンカが始まりあばれまわるので何度私に又ホストマザーにおこられたことか。スティ先は4歳の男の子と4ヶ月のベイビー、若いご夫婦、それにおばあちゃん、それからサウジアラビアからの大学生の留学生がいました。私もチャンスとばかりに話にくわわったのですが、とてもなまりが強く慣れるのに苦労しました。

皆明るくざっくばらんで気を使うことなくすごせました。私達の学校での授業も若者に混じって文法、英会話と楽しく勉強できました。午後からのアクティビティーはどれも楽しく又いい思い出になりました。孫の学校にも行ってみました。さすがに彼も”何言ってるかわかんない”なんていってましたがコンピューターを使ったりヘッドホーンをつかっての授業は楽しそうでした。孫が又行きたいといえば私もつれていきたいと思います。ただもう少し大きくなってから‥でもいいかなとも思います。

☆桐谷益子
☆関野稜大

New Zealand ～孫と留学～

関野稜大（6歳）

ホームスティでケンカして町で買ったキウィのヌイグルミをおいてきてしまいました。とりに一日だけ帰りたい。帰りに飛行機の中でやったゲーム（ドラゴンクエスト）が一番よかった。

日テレ「ズームイン」、孫とニュージーランド留学を見て

テレビ拝見いたしました。今時の孫事情にはびっくりいたしました。それだけ働いているお母さんが多いのでしょうか?私のまわりでわたしの英語の育児サークルに興味を持ってくださっている方は、自分が英語で苦労していまでも苦労している（仕事上つかっている）お父様、お母様が多いです。特に女医さんが多いです。商社や会社にお勤めのお父様は子供を中学、高校、大学で一度は単身で留学させたいようです。また、私はクリスチャンではないのですが、用賀教会を託児所がわりに利用させてもらっています。そこでおばあさんと孫で海外へ行かれている方が多いです。信仰をもっている人は経済的に恵まれている方が多いのですが（余裕がないと信仰できませんよね）キリスト教の世界遺産の場所に孫と旅行（留学）なんて企画があったら、うちの自称クリスチャンの母は飛びつきそうな気がしました。的がはずれた感想ですみません。　石田順子

今朝ズームイン見ましたよ。アッという間に終わってしまいましたが、ミッチが見れて懐かしかったです。何年も経つというのに全然変わってませんね!孫とホームステイはおばあちゃんの勇気が要りますね。なかなか出来る人はいないと思います。うちの上の娘は今、六年生です。ホームステイ経験させてやりたいと思っているのですが、主人がそういうの理解ないので、実現するには大変です。　山崎直美

今、華子と一緒に録画を見ました。あっミッチーだ!いつものようにばっちりだ～♪と盛り上がりました。ミッチーの話、参加者のインタビューどちらももっと長く見たかったです。海外ではお互いを頼りにするので、関係がより良くなるんだと分かりやすかったと思います。　斧原百合

只今テレビを拝見しました。ミッチーが綺麗だった輝いていた。第一印象です。もう少し詳しく流してほしかったですよね。私たち団塊の世代は留学憧れ世代です。これからお忙しくなられると思いますよ。健康にきをつけて頑張って下さい。　中西トモ子

番組みました。時間が少なく残念でした。もっともっとたくさん伝えたかっただろうと思います。しかし、ズームインのスタッフの口から「へぇ」「ほう」とかの言葉が聞こえてきたところを見ると、何等かの関心を示してくれたことにもなるでしょう。同時に、このような企画が一般には未だ認知されていないことを示していると思います。今日の報映は、企画を広く知ってもらうためにも、大変有効だったと思います。私も早速、15日付の鹿島学園通信制のブログに別紙のように書くことにしました。ご了解下さい。

鹿島学園通信制ブログH20、9.15掲載分原稿　孫育

今は、おばあちゃん、おじいちゃんが孫を育てる時代なのだそうである。9月8日、日本テレビズームインで孫育いろいろを彩り上げていった。その中で、私のよく知るカナディアン・アカデミー・セタガヤ（難波三津子校長、世田谷区新町、TEL03－3428－2444）の「孫と行くニュージーランドホームステイ」の企画が紹介されていた。カナディアンアカデミーは留学を始めて20年の実績があり、イギリスやカナダにも実績がある。「孫と行くホームステイ」は3年前位からのようだが、なかなか好評なのだという。番組で体験を話してくれた男子中学生は、「外国に行ってみて、おばあちゃんが日本にいる時よりも頼もしく思えた。日本にいる時なんで会話をしなかったのだろう?」といい、行く前との違いを自分でも不思議に思っているようだった。帰国後彼は家族にとけこみ、誰とでも会話できるようになっている。会話はコミュニケーションの前提である。日本にいたのでは、例え旅行に出かけたとしても、会話ははずまないかもしれない。国内では会話がなくてもなんとかなってしまうのだから。外国ではそうはいかない。会話が通じるのは自分とおばあちゃんだけ。二人が互いに軸になって会話せざるを得なくなる。片言ことばと身振りが出るようになれば、心も開き、心の叫びも出るようになる。重荷を下ろしたように気持が軽くなる。積もり閉ざされていた悩みや苦しみ、迷いが一挙にとけ出してしまうのである。新しい自分を取り戻し、日本に帰ってこれるのである。おばあちゃんも然り、この年になって世界に目が開け、おじいちゃんに改めて惚れてもらえるニューおばあちゃんになって家の門がたたけるのです。一人でのホームステイでは寂しいかも知れないから、二人であれば、それも克服できるでしょう。体験してみる価値はあると思うのだが。

H20、9.15　記　中島　清